

平成27年3月より新生児聴覚スクリーニング検査が変わります



<新生児聴覚スクリーニング検査とは>

先天性聴覚障害を早期に発見し、できる限り早い段階で適切な療育を受けられるようにするため、新生児を対象に行う検査です。

当院では生後 72 時間以降、退院されるまでの間に新生児聴覚スクリーニング検査の実施を推奨しています。



<新たな検査方法（自動 ABR）とは>

従来の耳音響放射(OAE)より精密な検査ができる自動聴性脳幹反応(Automated ABR、以下自動 ABR)に検査方法を変更します。

自動 ABR は、音に対する聴神経から脳幹の電氣的反応をみる検査で、ベッドサイドで赤ちゃんが自然に眠っている時間に検査します。

35dB という、ささやき声程度の刺激音に対しての反応を見るため、従来の検査では漏れてしまう軽度の難聴や後迷路性難聴を発見することが可能になります。

検査法	新しい方法(自動 ABR)	従来の方法 (OAE)
検査で得る反応	脳幹からの電氣的反応	内耳からの反響音
感度	後迷路性難聴を感知する 35db 以上の難聴を検出する 理論感度は 99.96%	後迷路性難聴を感知しない 40db 以上の難聴を検出する

<検査費用>

★5, 100円（※自費の検査となります）

